

環境問題を歴史的にとらえる新聞活用について

実践指定校第2年次

エクセラン高等学校 竹内久代

研究テーマ

- 生徒が 興味関心を持って取り組む環境学習
 - 生徒が 具体的かつ身近な問題として環境問題を理解できる学習
 - 生徒が 歴史的流れの中での「現在」の環境問題を意識できる学習（H21年度重点）
- 上記を実現するため、ひとつの教材としての新聞活用を考える

テーマ設定の理由

「環境科学」はエクセラン高校普通科環境園芸コースの履修科目で、環境問題を解決するための意欲や基礎的な知識・技術を身につけることを目的に設定されている。この教科では生態系→環境・環境問題→循環型社会を目指す方向を学習するが、生徒たちは学習に入る前から、環境問題のことを<言葉として知って>おり、ゴミを分別しなければいけないことを<知って>いる。教科書だけで学習を進めると「知識として覚えること」が優先し、身近な生活視点からの理解や取り組みがない生徒たちの姿勢に「主体性のなさ」を感じてきた。

2年前から環境学習に「新聞」をいろいろな場面や方法で取り入れることで、

現在社会に生じている環境問題や循環型社会実現への技術を具体的に知ることができ

自分たち人間が被害者であることは勿論、問題の原因を作っているのも解決していくべき主体も人間であることが感じられた。

昨年度1年間とおして環境学習に新聞を活用してきた学年（現3年生）は、環境問題の理解と同時に、地域に出て環境問題の理解を深める姿勢や、地域に伝える姿勢を身につけ、今年度は地域で活動しながら多くのことを学ばせていただいている。

一方、現在生じている問題や解決方法を具体的に知ること、環境問題のひとつの特徴である「国境を超えた地球レベルの問題であること」への理解は深まったが、「世代を超える問題」「原因究明まで待てない問題であること」など、時間的な流れの中の「現在」という問題意識が不足していると感じる。今生じている（顕在化）している問題は過去からの蓄積であり、また「今」は未来への出発点でもある。環境問題を理解するためには歴史をとらえること、歴史的視点でとらえることが大切だと思われた。

新聞は「現在」の情報を教えてくれるが、「過去」の情報はどのように得ることができるだろうか。インターネットや書籍には「環境問題年表」が出ていて、流れの概略を把握するには大変便利であった。しかし、年表に示されている問題や対策は「事件」「法案・規制」で表記されている。「生徒たちに具体的な情報から環境問題の流れを感じさせたい」と考えていた時に、鯛中先生（前・県NIE推進協コーディネーター）からS46、47年の環境問題のスクラップ新聞記事をいただいた。

今年度2年生の環境科学では、教科書での概論を学習しながら、現在生徒たちがスクラップしている記事と、いただいたS46、47年の記事を比較しながら、具体的な情報から環境問題の流れ（特徴）を読み取る授業を組み込むことにした。

研究内容

1 「環境科学基礎」の学習のねらい

(1)環境のとらえ方

環境のとらえ方を理解し、自然と人間の関係について知る

環境問題の重要性を理解する

地域環境と地球環境の二つの視野を持つ

(2)地域環境と生態系

さまざまな生態系の特徴をとらえ、生物と環境のかかわりを生態系の仕組みから考える

水循環の中で上流と下流のつながりを理解する

(3)地域環境と人間生活

環境保全機能を学びどのように生かすかを考える

地域環境の保全と創造の在り方を考える

(4)地球環境と人間生活

地球環境問題と人間生活の関係について考える

変わりゆく地球環境の現状を理解し、問題の解決策を探る

(5)自然と人間の共存

自然と人間が共存する方法を考える(環境負荷を減らす方法・新しい循環型社会のあり方)

2 新聞活用にかかわって

(1)過去2年間の新聞活用のねらいと成果・課題

H19年度 新聞活用のねらいと概略	H19年度 新聞活用の成果と課題
<ねらい> ・教科書で環境概論を理解すると同時に ・現在地球や地域で生じている具体的な環境問題を新聞記事から見だし、 ・環境問題に関心をもち ・環境問題を身近な問題として理解する。 <主な活用> ・教師が収集し分類した新聞記事をもとに ・2年生はグループごとに自分たちで興味のある環境問題について模造紙にスクラップ新聞としてまとめた。 ・3年生は各々が印象に残った環境問題についてパワーポイントにまとめて発表する。	<成果> 「地球温暖化」をはじめとする「大気環境の変化」「生物多様性の危機」などの問題を具体的内容をもとに理解を深めることができた。自分に関係する問題であると感じた。 <課題> 自分で環境問題に関する記事を見いだす力 具体的情報を分野別に「分類」する力
平成20年度新聞活用のねらい	成果と課題
<ねらい> ・教科書で環境概論を理解すると同時に ・具体的な事象を根拠として、	<成果> 自分の収集した新聞記事を自分たちで分類し、学習に使うことで、環境問題がより身近に

自分の言葉で環境問題の特徴付けができる <主な活用> 1年間おとしての新聞活用 新聞記事を収集し、キーワードを書き出し 問題分野ごとに分類し 新聞の何面にどのような環境問題が出ているか 調べ 2年生は グループごとに模造紙に「環境問題の 特徴付け」をまとめた。 3年生は個別に、パワーポイントを利用して「環境 問題の特徴付け」をまとめた。	感じられ、具体的に理解できた。 環境問題は人間生活・人間社会が起こしてきた「社会問題」であることに気づいた。 循環型社会実現にむけて、自分たちの生活 の見直しと同時に、地域に出て、地域の人たちと 交流しながら環境問題について伝えたり考えたり することの大切さを痛感した。 <課題> 歴史的な流れの中での環境問題の把握 自然科学的学習とのバランス 地域との結びつきからの学習 (能動的に動き始めること)
--	---

(2)平成21年度の環境学習での新聞活用全般実践の流れ

<ねらい> ・具体的な情報を新聞記事から拾うことで、環境問題を身近な問題として感じる。 ・新聞の面に注目して、「面」に適合した環境問題を見ていくことで、環境問題の幅の広さを感じる。 ・「今」と「S46年」の新聞記事を比較しながら、歴史的流れの中で変化してきている環境問題を感じる。			
	2学年「環境科学基礎」		3学年環境学習
1学期	教科書と実地	新聞活用	・あがたの森公園 調査 ・公開講座 ・面のある形式での 環境新聞作成 【P96 写真2】
	生態系	・毎週 新聞記事のスクラップ提出(課題) ・現在の新聞記事からキーワードを書き出す 【P94 添付資料1】 新聞の面の特徴学習 ↓ ・パネル新聞作成 【P96 写真1】 面に注目した環境新聞 →最終的なまとめではなく、学習に利用し 情報を重ねて変更していけるものにした	
2学期	地球環境問題 ↓	・S46～S47年の新聞から 環境キーワードを書き出す【P94 添付資料2】 <現在とS46年の環境問題キーワードから> 環境問題の時間変遷の特徴把握	環境年表の作成 ・データーバンク利用で キーワード出現数把握 ↓ 環境問題の時間変遷の

		歴史の流れの中での現在の環境問題位置付け	特徴把握
3学期	人間との共存	歴史で積み重ねられてきた環境問題に対して自分は何ができるかを考えまとめる。	パワーポイントにまとめ発表

実践内容 公開授業前後の新聞活用について

1 対象講座人数・対象講座(授業)内容

本校普通科は特色ある4コースに分かれており、各コース独自の必修授業が設けられている。環境園芸コースでは2年生で学校設定教科である「環境科学基礎」の履修が義務づけられており、近年大きな社会問題である環境問題について学習している。「考える力」「理論と現実を結びつけられる力」「いろいろな情報を引き出し選択しまとめる力」「自分の意見をまとめる力」をつける大切な教科になっていると同時に、進学先決定の要因を持っている授業・コースである。

対象講座 普通科環境園芸コース 2年15名 3年21名

(1)生徒につけたい力

生徒の素地力(このような生徒が)

生徒15名は、今年度4月から環境に関する学習を始めた。
 新聞活用についてはほとんど初めてで、家庭ではTV 欄以外新聞を読まない生徒が大半であった。(新聞をとっていない家庭もある)
 生徒の約半分は進学希望者。学年の上位成績者も含まれるが、学習能力の低い生徒もいる。
今年度の特徴として成績上位者のほとんどが、コミュニケーションが苦手である。
 環境問題などへの興味関心が強いが、教科書・本やインターネット情報の「言葉」をそのまま受け取り、それで「知っている」と思いがちである。
 「覚える」学習には強いが、資料を積み重ね、そこから「情報を読み取り」「根拠を持って考える」力が弱い。また人に自分の考えを伝えたり、人と話し合うことが苦手である。

このような手立てで

自分が収集した新聞記事とそこから自分で書き取った「キーワード」カードの色: 水色
 S46・47年の新聞から自分で書き取った「キーワード」カードの色: ピンク
 環境年表や環境領域の図に「キーワード」カードを置くことで
 歴史的な流れの中での環境問題をとらえ、現在(自分)が未来につながっていくことを感じ
 自分の意見をグループで持ち寄り話し合う

こうなるだろう

新聞を開く時間が増え、キーワードを探りながら記事を読みとおすだろう
 考える資料(情報)を、比較・整理し、共通性と違い、特徴を見出す力が付くだろう
 時間の流れで環境問題をとらえる力が付くだろう

(2)教材の価値と新聞活用の意図にかかわること(ねらいに迫る視点から)

環境問題の現状、問題対策の国際協力(条約など)と新しい技術や考え方の獲得

環境問題・対策についての具体性の獲得

環境問題の歴史性の獲得(H21年度重点)

(3)この単元の指導のねらいにかかわること(この単元で生徒につけたい力、教師のねらい)

長い時間の結果現在の環境問題が生じていることから、原因究明を待っていることができない問題であり、世代を超えて流れている問題であることを感じてほしい。

自分たちは今までの歴史的「被害者」であると同時に、今後の「加害者」でもあることを歴史の流れから感じ、今後の循環型社会実現に関わっていくべき「自分」を考えてほしい。

2 単元名と目標

(1)単元名 環境と人間生活 「自然と人間の共存」～歴史的に変化してきた環境問題の中で～

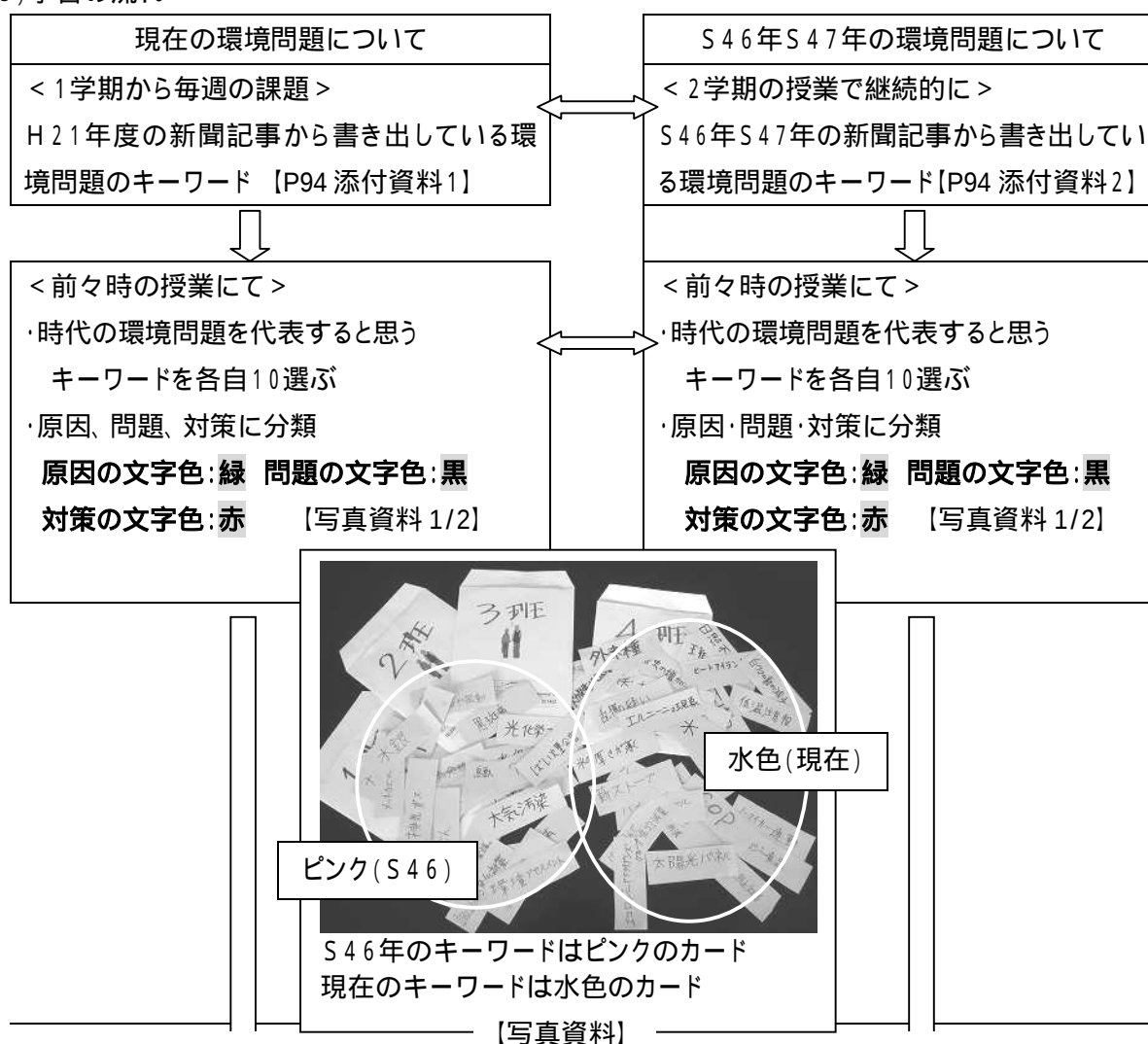
(2)単元の目標

* 主目的 歴史の流れの中で生じてきた環境問題を意識することで、
環境負荷を減らすための新しい循環型社会の在り方や自分の生活を考える

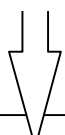
* 具体目標

歴史の流れの中で今の環境問題に対して どのように自然と共存していけばよいかを考える

(3)学習の流れ



【資料1】



546年・547年のキーワード(ピンクカード)			2009年のキーワード(水色カード)		
原因(赤字)	問題(黒字)	対策(赤字)	原因(赤字)	問題(黒字)	対策(赤字)
気候変動	気候変動	気候変動	気候変動	気候変動	気候変動
資源不足	資源不足	資源不足	資源不足	資源不足	資源不足
エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー
水資源	水資源	水資源	水資源	水資源	水資源
水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染
水資源の枯渇	水資源の枯渇	水資源の枯渇	水資源の枯渇	水資源の枯渇	水資源の枯渇
水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染

原因 (赤字) 問題 (黒字) 対策 (赤字)

ピンク(S46) 水色(現在)

【資料2】



546年・547年のキーワード(ピンクカード)			2009年のキーワード(水色カード)		
原因(赤字)	問題(黒字)	対策(赤字)	原因(赤字)	問題(黒字)	対策(赤字)
気候変動	気候変動	気候変動	気候変動	気候変動	気候変動
資源不足	資源不足	資源不足	資源不足	資源不足	資源不足
エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー	エネルギー
水資源	水資源	水資源	水資源	水資源	水資源
水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染
水資源の枯渇	水資源の枯渇	水資源の枯渇	水資源の枯渇	水資源の枯渇	水資源の枯渇
水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染	水質汚染

原因 (赤字) 問題 (黒字) 対策 (赤字)

ピンク(S46) 水色(現在)

< 前時の授業にて >

・キーワードをもう一度整理し「時間軸」と「環境規模」の表に1度置いてみる

< 前時の授業にて >

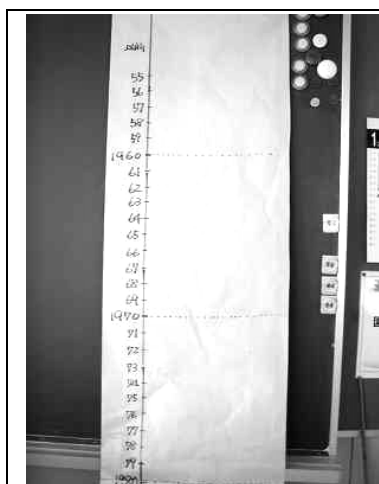
・キーワードをもう一度整理し「時間軸」と「環境規模」の表に1度置いてみる

< 本時 >

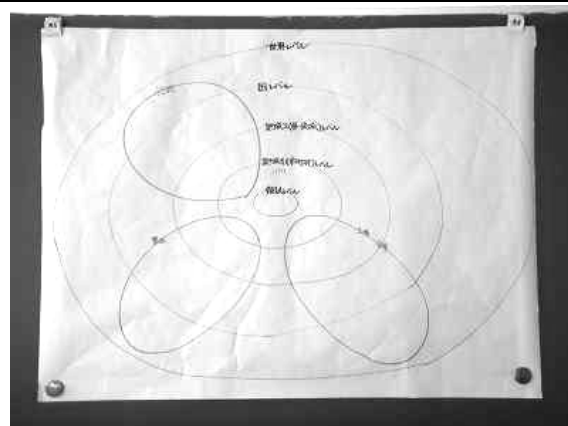
・「歴史軸」「環境規模」から、環境問題の特徴をとらえ、問題の根の深さと今後に続く流れの中に自分がいることに気づく

< 今後へ >

歴史の流れの中での「現在の環境問題」に自分たちはどのように取り組んでいけばよいか
「持続可能な社会のありかた」



キーワードカードを置く「年表図」



キーワードカードを置く「環境領域図」

個人レベルから市町村・国・国際レベル 行政・企業の領域

【添付資料1】 2009年の環境問題キーワードの一部

2009年の環境問題キーワード(11月15日現在調べ)	
	見出し キーワード
H21/4	サクラが泣く・・花見のゴミ ゴミ 花見客が捨てて 公園緑地課 マナーを呼びかけ
H21/4	森の世紀 変わる意識 林業担い手 経済危機(不景気) 環境対策 林放置 間伐が必要 担い手対策 森林整備 山仕事
	森の世紀 初めての現場 就職難 林業 職業として意識 山の手入れ
	森の世紀 山仕事新たな動き 職業としての山仕事 余暇を利用した山仕事
	牛のけつぶのメタン減らせ 地球温暖化防止 二酸化炭素 メタンガス 温室効果ガス
H21/4.22	国際バイオ燃料元年 バイオエタノール バイオディーゼル 石油化石燃料
	太陽光発電 オール電化 森林生態系の破壊
	持続可能なエネルギー 大量生産の事業 安定供給
	エネルギー自給率をあげる 食料とバイオの両立
	食糧と競合 バイオ米で田んぼが守られる
H21/4.21	森の世紀 人・地域のため 山仕事 間伐の遅れで利用価値が見込めない 森林整備 KOA森林塾 個人事業から株式会社へ 地域に根差した
	温暖化防止で目録協力 米環境保護局 温室効果ガス削減対策 京都議定書
	温暖化防止で緊密に協力 環境政策の加速 COP15
	森の世紀 身近な資源の利用 里山 身近な山で木を切り出す 地元の技術で家を建てる
	森の世紀 家づくりが一変 森林資源を使いまわす 薪と薪のつながり
	木材の太木 炭焼き窯の点検 当り前の暮らし
	北米や欧州の木材に有利 伝統工法への注目 放置林
	木材自給率 環境負荷を減らす ウッドマテリアル
	流通を変える 新生産システムの確立
	高層火入れ森林化防止 霧ヶ峰高層 樹木下草を燃やす レンゲツツジの植生調査
	三ノ山を美しい森に 森林管理組合 植栽 下草刈り 緑化活動へ取り組み
	湖畔自然触れ環境問題学ぶ 自然環境を考える 水車や雑草を観察 苗木を植栽
H21/4.28	ゴミのポイ捨て撲滅へ ポイ捨てを監視 環境美化推進指導委員 ゴミを拾う
	ゴミの分別 環境問題に関心をもって参加
	希少種は今71 モイワナズナ 鳥獣レッドリストで絶滅危惧ⅠA類
	希少種は今70 本州唯一の自生地
	カンムリカイツブリ 鳥獣レッドリストで絶滅危惧ⅠB類
H21/5.8	森の恵み生かすには 日本には冬に寒来
	山に入る機会を増やす 森の力を暮らしに生かす
	林業関係者 魅力を伝える 伝統的な建築を伝える
	山菜キノコまつり 農産物利用 地産地消 薪ストーブ
	森林塾 人材育成 製材会社の減少 山が荒れた原因
	霧ヶ峰21 里山整備 消費者と森林従事者をつなぐ
	環境を考えた家電製品 省エネ性能が高いエコ家電など
	エコポイント エコカーへの補助25万円 長い目で見て
	森の世紀 消えていく古家屋 世界遺産 森が支えてきた日常生活 地元の森林資源
	森の世紀 ウッドマテリアル 二酸化炭素削減 環境にやさしいが数値で 京都議定書
	森の世紀 暮らしの種次世代 地元材 産地の山 省エネ 木材を循環させる
	生産森林組合 間伐材利用 炭焼き 新炭林 ベレツ
H21/5.21	環境車の競争激化 ハイブリッド車 環境対応車 太陽光パネル 電気自動車
H21/6.23	温暖化対策法案可決 二酸化炭素削減 企業に温室効果ガスの削減を義務付け 京都議定書
H21/5.20	森をテーマに活動 国際林組
H21/5.22	温室効果ガス削減へ 生活や授業の中に森をテーマ 地域の森を身近に
	もりいじ 自然になじむ
	大都市サミット 温室効果ガス最大削減 低炭素都市
	京都議定書後の温暖化対策 気候変動枠組条約
	エコポイント始まる 省エネ家電 エコポイント制度 ロゴマーク 省エネ基準
H21/5.2	希少種は今72 リサイクル クマカインソウ 鳥獣レッドリスト絶滅危惧ⅠA類 保護監視員

(中略)

H21/10.8	東京モーターショー出展	二人乗り電気自動車
H21/10.6	分別変更でゴミ減少	小型家電の再資源化 分別変更 埋め立てゴミ減少
H21/10.7	電池で走るエコ電車	有効活用 燃料利用 再利用
H21/10.5	諏訪湖浄化を願って	蓄電池 排気ガス低減 エネルギー効率 排出量半減
H21/10.7	海中開闢で温暖化危機訴え	アオコ発生 水質汚濁 徐々に改善 浮遊植物にシシ除去作業
H21/10.8	運動はノーマイカーで	化学的酸素要求量 汚泥の焼却灰
H21/10.9	間伐材は次世代燃料	水没懸念のモルディブ 地球温暖化による海面上昇
H21/10.6	エコかるたで環境学ぶ	温室効果ガスの削減 削減 気候変動政府パネル
H21/10	エアコン熱い冬商戦	温室効果が明日 県下一斉ノーマイカー運動ウィーク
H21/10.17	希少種は今88	スキー場1 薪ストーブ 間伐材 二酸化炭素排出量削減
H21/10.17	フクロちゃん絵本に	森林整備 資源の有効利用
H21/10.14	家庭の生ゴミ資源に	リサイクル ゴミの分別 消費生活課 子どもに発信
H21/10.21	トヨタセダン新HV	省エネ性能
H21/10.24	みんなでする奈良井川	ヤマコウモリ ニホンウサギコウモリ 準絶滅危惧
H21/10.20	排出量減少35年以降	樹洞のある古木 保全
H21/10.20	トヨタ新型マークX発売	レンジ袋削減 メッセージ発信 環境保護
H21/10.23	ノーマイカー道のり遠のく	段木 したい泥 生ゴミ 手軽にたい肥化 資源化
H21/10.23	太陽光発電の照明を	中型はオフロード車
H21/10.20	ノーマイカー運動始まる	環境美化活動 河川敷 NPO法人 不法投棄
H21/10.20	小さくなったクマログロ	河川の環境維持 清掃活動
H21/10.24	森林保護へ団体連携	中国のCO2 低炭素都市開発 省エネルギー 環境対策
H21/10.19	対立解消道筋探る	二酸化炭素排出量 再生エネルギー
H21/10.22	最先端のエコカー技術	エコカー減税
H21/10.21	環境考える行き方提案	エコカー運動 二酸化炭素削減 自転車運動 温暖化対策
H21/10.20	循環型社会構築のために	研究 太陽光発電 通学路の照明
H21/10.27	太陽光発電買取新制度	温暖化防止 温室効果ガス削減 ノーマイカー運動
H21/10.29	一般家庭募集に苦戦	環境保全協会 プラスチック容器開発会
H21/10.27	環境にやさしい街へ	乱獲の疑い 繁殖に影響
H21/10.28	ゴミ減らし経費も削減	森林ボランティア 異常気象 地球温暖化の影響
H21/10.27	環境車部品開発へ	森林の荒廃 ダムや道路建設 森林保全の後継者
H21/10.28	電気自動車到着	温室効果ガス排出量 国際的規模 気候変動枠組条約
H21/10.31	省エネ設備の導入支援	中国 先進国
H21/11.11	エコバックで水源守ろう	モーターショー エコカー先進国 ハイブリッド車 家庭用電源
H21/11.12	リサイクルで野菜栽培	レンジ袋を主人公 環境問題に関心 過剰包装 マイ袋
H21/11.13	県内O6年度も3.1%増	森林破壊 二酸化炭素を吸収する森林 土砂流出防止
H21/11.2	希少種は今90	ゴミの分別 可燃ゴミ ゴミの減量 各家庭の意識
		リサイクルの日 3R 行政の取引 環境問題 回収
		資源物回収施設 ゴミの減少傾向 再生可能
		太陽光利用 温室効果ガス削減 家庭用発電
		太陽光発電
		ソーラーの町づくり 太陽光設置 環境にやさしい
		太陽光発電システム
		環境モデル都市 電動アシスト自転車買出 温室効果ガス
		排出量削減 電気自動車活用 ビジネスの可能性
		回収容器 使い捨て 割りばし 資源を大切に 地球温暖化
		環境への貢献 二酸化炭素削減 マイはし エコ活動
		宅配弁当 回収容器
		環境対応車
		電気自動車での観光産業 レンタカー
		ケニア 干ばつ被害 異常気象
		省エネ設備導入事業 環境政策課 地球温暖化防止
		売上一部 水源の里基金 エコバック 上流域 下流域
		里山保全 NPO森林クラブ ミツバチ 役割分担
		経済活動と生態系 農業使用 地球温暖化 電波
		リサイクル業者 廃プラスチックから精製 リサイクル原料
		野菜工場 農業不使用 自家発電発光ダイオード
		温室効果ガス 排出削減目標 エネルギー消費量
		ピーヒカゲ 調査機 天然記念物 生息域が途切れる
		採取 個体数の元首 違法

【添付資料2】 昔の環境問題キーワードの一部

1971年頃の環境問題キーワード(11月2日現在調べ)

月日	記事の見出し	キーワード
S47	550戸の団地造成	農林都市構想 土地のスプロール化(虫食い) 農住計画推進地域
S47/2/18	水俣病発生に新説	水俣病発症 への精調査 1.032PPM 終戦直後から
S47/3/15	ニオイ公害に規制 測定可能な5物質	大気汚染 中央公害対策審議会 環境庁 悪臭物質 悪臭物質臭気強度別濃度 臭気強度
S47/5/19	大石長官 国連会議へ構想	環境対策 海洋汚染の全面防止 渡り鳥の国際保護 放射性廃棄物の海洋投棄禁止 廃油排出規制 環境汚染物質の測定方法の国際規格統一 日米特殊鳥類保護条約 商業捕鯨15ヶ年禁止案 水俣病 イタイイタイ病 環境破壊
S47/1/29	自然保護法環境庁が骨子	自然環境保全法案 自然保護団体 厳正自然保護地域 良好自然環境保全地域 緑地環境保全地域 自然公園法 鳥類保護 日本渡り鳥
S47	「自然を守る日本」の名を	自然保護憲章 国連人間環境会議 水俣病 自然保護憲章制定促進協議会
S47	公正な公害調査委員会を	公害紛争 イタイイタイ病 水俣病判決 公害被害者 ばい煙公害
S47	めだつ生活環境部門 評価は実質的行政内容に	公害 自然保護 環境庁 生活環境局 環境整備 環境保全 衛生部公害局 環境保護部 自然保護課 「商工労働部から自然公園関係を取り出して環境部にする」 緑化推進事業部門
S47/1/19	上高地の収容力は？ 森林伐採の影響は？ 自然破壊の実態科学的につかむ	道路建設に伴う森林伐採の生態系に与える影響 原生林が枯れる 環境庁 環境破壊 公害 自然界 自然公園の収容力 微量の有害物質 汚染度 環境庁保護管理専門官 美ヶ原線問題 保護行政
S47	タン・セキの症状 鼻炎からきた貧血関節炎	排気ガスが原因 呼吸器異常 タンセキで悩む
S47/5/26	政策転換を強調	過去二回の公害白書 環境政策の新しい座標 有限な環境資源 閉じた国土閉じた地球 環境悪化のパロメーター 生物指標(酸っぱった) 自動車害悪論 PPM主義 規制中心主義 環境破壊現象を後追い 汚染防止から環境管理
S47/5/26	初の環境白書	P P M 汚染者負担の原則 環境アセスメント テクノロジーアセスメント 大気汚染 赤潮 PCB (ポリ塩化ビフェニール)
S47/3/18	汚染に国際的基準	国連人間環境会議事務局 人間環境宣言草案 捕鯨凍結
S47	霧ヶ峰の保護と開発	自然保護運動 国定公園指定 開発 自然保護条例 環境庁

(中略)

S46/9/6	住民サイドとは何か	公害企業
S46	横出し規制導入	水質汚濁 ばい煙 悪臭発生
S46/9/3	社説 自然保護行政に筋通せ 地域開発博覧会に望む	開発賛成・反対の意見対立 ビーナスライン美ヶ原線 自然をどの程度破壊するのか 自然保護の立場 地域開発 自然保護対策 自然保護審議会 海洋博 観光貿易博 環境保全博 公害防止 環境保全問題は世界的な課題 流域下水 世界規模での環境問題取り組み
S46	自然破壊を総点検	県環境保全課 自然保護条例の制定 自然保護月間 自然保護地区 自然破壊の総点検 植生復元のない裸地 湖水の汚染 別荘開発 川をきれいにする運動 山岳勾当からのゴミ追放運動 全市町村あてての自然破壊調査実施調査 植物群落の変遷 動植物への影響 道路ノリ面処理
S46/7/24	公害防止 上田でも本格的協定へ	立ち入り検査 市にかなりの権限 自然保護条例 反響呼ぶ長野方式
S46/2/19	一ヶ月後に注目の判決	水俣病裁判 汚水原因 水銀
S46/2/9	環境に対する費用と負担	新経済社会基本計画の内容 バランスのとれた貿易
S47/7/29	地域診断 もっと計画的に・・・ 信州新町畜産振興と公害	悪臭公害 放牧地との共存 簡易水道の水源 畜産公害 産業とのバランス 山林開拓
S46	県自治研センターが発足	公害 高度経済成長 地方自治体 シンポジウム 公害と財政
S46/2/9	県観光行政の転機	ゴミ処理 し尿処理 環境汚染 観光公害 排気ガス 環境対策
S46	68世帯の大移動	豪雪被害 道路除雪
S46/2/9	都市計画区域の開発規制	環境破壊 環境保全 工業団地造成 地価の高騰
S46	方向付けは来春	環境保全 地域開発 秩序
S46/9/30	できるぞ「緑の広場」	緑地 レクリエーション 市民休息 生活環境
S46	深刻な水・医師不足	ゴミ処理 し尿処理 不燃物処理 過疎化 水質汚染
S46/10/12	開発 もう沢山	諏訪湖の汚染 信州の自然が失われる 環境破壊 自然破壊
S46	地域に根ざした文学	自然 過疎の問題
S46	高濃度の重金属検出	死の海 高濃度の重金属 CCD
S46/8/7	コミュニケーション構想で	公害 環境整備 市民の力
S46/8/22	公害問題廃止提案	適正配置 大企業 地元中小企業 公害問題 住民反対 セメント工場 粉じん公害 工場誘致 生活環境保全 団地造成を推進

研究のまとめ(実践の成果)

(1)環境問題を歴史的にとらえる新聞活用について

4つのグループに分かれ、2班ではキーワードを年表に、2班はキーワードを環境領域図に置いて、環境問題の歴史的な特徴を話し合った。



年表上にキーワードカードを置いていく班



領域図上にキーワードカードを置いていく班



生徒の気付き

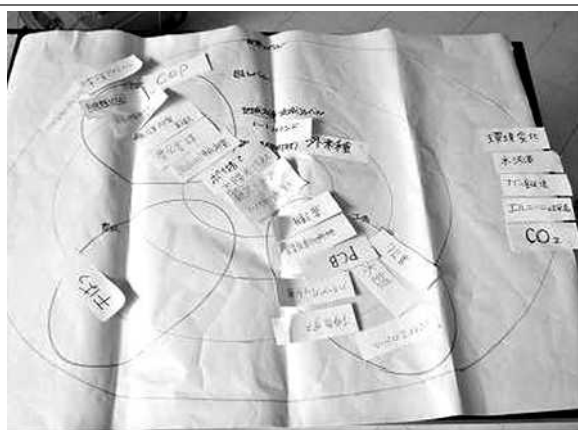
S46年の新聞から選んだキーワードでも、現在も問題視されている。

現在の新聞から選んだキーワードでも、S40年代以前から問題視されていることが分かった。地球温暖化というキーワードも決して今に始まったことではない。

S46年の対策キーワードは規制が多い。

現在の対策キーワードは、国際会議などで守られている。

大基は、産業革命によるところが大きい。



生徒の気付き

S46年のキーワードは、地域レベル(公害問題関連)などが多いが、現在のキーワードは国際レベルが多く、一方個人での取り組み(対策)のキーワードが多くなっている。

企業はかつては問題の原因主体であったが、現在は解決を考える主体になりつつある。

国際レベルでの対策は規制であるが、現在は個人レベルでの意識改革や教育、NPOの活動なども盛んになっている。

考察

- ・自分たちは過去からの「ツケ」で生じている問題を考えていかねばならない。
- ・一方で、自分たちの生きている「今」が将来の問題を積み重ねていることも意識が必要。
- ・行政による改善と同時に、個人での取り組みが大切。

< 新聞活用の効果 >

今回は新聞記事そのものを扱うのではなく、現在と546年の新聞記事から選んだ「キーワード」をもとに学習を進めた。

新聞は現在の情報を迅速に伝える媒体である。

新聞は時間の蓄積を伝える媒体(資料)でもある。

(2) その他の新聞活用について

環境新聞づくり・展示

- ・自分たちの考えをまとめる機会
- ・他の人の考えを知り、自分の考えと比較融合する材料



【写真1】 2年作成環境パネル新聞



【写真2】 3年作成環境新聞

学校活動が紹介された新聞記事を掲示板に張る。



- ・自分たちの活動が認められていることへの自信につながり、次への意欲につながる。
- ・保護者との信頼関係が強くなる。
- ・地域の人々の本校教育への理解が深まる。



今後の課題

指定校でなくなることで新聞が配布されなくなったが、本校職員に「新聞を読む生徒の姿」が浸透し、学校に個人用新聞を取るようになった職員や、家庭で読んだ後の新聞を持ってきて机に置いてくれる職員が出てきた。NIEの新聞を見る生徒が増えてきたことで、学校全体での気運が高まった。

今後も環境学習という教科での活用は勿論、学校全体での取り組みが期待できそうである。

1年目は新聞活用の効果について硬く考えていたが、教師自身が、授業改革をしていく上で、新聞そのものの効果の広がりと同時にNIEで広がった先生方や新聞社の方々からの刺激がなよりの成果であると思えるようになった。今後も得たつながりや広がりを大切に、授業改革に取り組んでいきたい。